

=====

本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより会員の皆様にお送りしております。

=====



◆ NEE Mail Magazine 101号 ◆

-----2017-6-2◆◇

水無月、六月。梅雨の季節のはじまりです。

メルマガも101号。衣替えにならって新しいスタートとしたいと思います。

とはいえ、毎年書いていますが、六月は国民の休日がない唯一の月です。学校も中間考査が終わり、次の期末考査まで無休の日々が続きます。それでいて蒸し蒸しとした気力と体力が求められる月、それが六月です。

そんな季節、今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【1】最新活動報告

5月の活動、ネットワークメンバーの活動を報告します。

【2】イベントカレンダー

夏の教室の情報、部会の案内、関連団体の活動などを紹介します。

【3】授業のヒント「十八番のネタをもとう」

【1】最新活動報告

5月に行われた活動を報告します。

■大阪部会(No.53)を開催しました。

日時:2017年5月13日(土) 18時00分~20時00分

場所:同志社大学 大阪サテライト

主な内容:13名参加。

(1) まず、篠原総一代表(京都学園大学)から、最近の経済教育ネットワークの活動についての報告がありました。

(2) 奥田修一郎先生(狭山市立南中学校)からふたつの教材が示されました。

ひとつは、貿易に関して比較優位の説明をウサギとカメの協力関係に例え、最後には、トランプ大統領に宛てた手紙を書かせるという授業です。

もう一つは、経済分野全般にわたる知識・理解学習のための四択問題が30問紹介されました。

検討では、篠原代表から、研究者の間でも意見が異なる問題や、過去と現在とで常識が変化した問題などもあり、教科書的には正解だとしても、実際には

そう断言できないものも多いとの指摘がありました。

(3)大塚雅之先生(三国丘高校)から、「経済分野への導入教材」と題する授業実践が報告されました。

この授業は、第一段階で 50 円の予算でチロルチョコとうまい棒にどう配分するか、最大の満足を与える組み合わせを決めます。次の段階でチロルチョコとうまい棒を生産性が異なるグループで生産させ、作られた物を他の班と交換し、好ましいチロルチョコとうまい棒の組み合わせを何セットつくることができるのかを競わせるというものです。

経済学習において最も重要な基本概念である「分業と交換」、あるいは「国際分業と国際貿易」のメリットを体験させるものと評価されました。

(4)山本雅康先生(奈良学園中学高校)からは、「18 歳選挙権」や新科目「公共」を見据えた租税に関するアクティブラーニングの授業」と題する報告がありました。

これは、税や社会保障支出に関する異なる考え方を六つ提示し、各人に与えられた持ちポイントを、まずは個人から、次にグループで付けさせ、最後にもう一度個人で選ばせるという授業です。

この授業は、ポイント配分の変化が面白く、効果的な学習ができるよう工夫されていると評価されました。

(5)河原和之先生(立命館大学等)からは「自動車生産から経済地理的見方・考え方を育てる」と題する授業提案がありました。

これは、自動車産業にしばって、「なぜそこに自動車工場を作るのか、作れるのか」を問いながら、見方・考え方を培う授業です。

部会内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka53report.pdf>

■東京部会(No.91)を開催しました。

日時:2017年5月19日(金) 19時20分~21時10分

場所:日本大学経済学部本館2階会議室

主な内容:12名参加。

(1)夏の経済教室の準備状況の確認を行いました。

内容の準備は完了して、6月1日には、東証HPで案内と受付を開始するとの報告がありました。

(2)夏の教室の「テスト問題と経済教育」の内容が検討されました。

鍋島史一氏(教育実践研究オフィスF)から、「テスト問題を視点に授業改善を考える」に関して内容趣旨の説明がありました。鍋島氏からは、テストに求められる要件を満たす問題をどのように作成するか、また、生徒の変容を確認するための採点や

評価の流れを当日紹介したいとの説明がされました。また、当日取り上げるテスト問題の候補とその特徴、センター試験に代わる新テストのサンプル問題と候補問題との関連なども合わせて紹介されました。

(3)主権者教育に関する報告がありました。

新井から、東京部会有志でおこなってきた「主権者教育に経済教育からの風を」会議の報告がされました。篠原代表からは、どういう政策に対してどういう決め方が社会にとってよいのかを考えることは大事であり、このテーマでの検討はさらに必要とのコメントがありました。

(4)教材検討行われました。

検討されたのは、高橋勝也先生(都立武蔵高・中)が作成に協力した厚生労働省の教材集『「はたらく」へのトビラ』のなかの、「最低賃金制度を深く考えてみる」という授業プランです。

この授業プランは、最低賃金を巡る労働者A(批判論)と労働者B(引き上げ論)のシナリオを生徒が読み、それをもとに考えるというロールプレイと話し合いを加味したものです。

検討では、ロールプレイから生徒が何をつかみ、どう変容したのかの評価がこのプランだけからは見えない、最低賃金が何を目的として設定されたのかそれを押さえたうえでロールプレイが必要ではないかなどの注文が出され、意見が交換されました。

(4)篠原代表から、大阪部会の河原和之先生(立命館大学他)と、山本雅康先生(奈良学園中高)の授業資料が配布されました。また、中学校の先生方が参加しやすい土曜日に部会を設定してみることに、秋以降「公共」をテーマにシンポジウムなども企画したいとの意向が示され、今後の課題として検討することになりました。

部会内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo091report.pdf>

■札幌部会(No.17)を開催しました。

日時:2017年5月20日(土) 14時30分~17時00分

場所:キャリアバンクセミナールーム

主な内容:12名参加。

(1)自己紹介のあと、野間先生より、年次大会及び、夏休み経済教室のプログラム、名古屋部会での新科目「公共」の議論の内容について報告が行われました。

(2)東京部会から参加された杉田先生より、「経済の基礎概念から設計する有権者教育」について実践報告が行われ、検討されました(授業の内容については、東京部会第90回の記録を参照)。

(3)山崎辰也先生(北見北斗高)より、「国鉄分割民営化とJR北海道の経営問題」についての授業案の提示がありました。

これは、1983年の国鉄分割民営化時点での未来予想の路線図と、現在のJR北海道で維持可能としている線区がほぼ一致することを見出させることから始まり、JR北海道と他のJR6社の決算見通しから、なぜJR北海道は大幅な営業赤字なのかを導かせ、最後に線区の維持の必要性和経営状態の関係を踏まえて、自分の意見を考えさせるという授業です。

授業案の検討ののち、北見北斗高校の校長挨拶が、「政治・経済」の授業風景のコメントから始まっていることが紹介されました。さらに、山崎先生が書かれた高島善哉に関する論文の内容説明がありました。

(4)濱地秀行先生(北教大札幌校)より、中学校社会科向けに作成した「公共財ゲーム」についての実践報告が行われました。

ゲームの内容は、1200万円でダムを建設するために、「A:1200万円、B:800万円、C:600万円、D:400万円、E:200万円」の所得に占める税金の「負担額」をグループで決めて、その所得に占める「割合」を求めるというもので、この実践をもとに論文をまとめるとのことでした。

(5)川瀬雅之先生(札幌旭丘高)より、教材情報が四種類紹介されました。また次期学習指導要領に向けての知識のとらえ方に関する説明がありました。

ほかに、北海道高等学校政治経済研究会(道政研)から発行を予定している『主権者教育実践事例集』(8月4日発行予定)の原稿の募集案内も行われました。部会内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo017report.pdf>

【 2 】イベントカレンダー

* イベント予定です。

■夏の経済教室の受付がはじまりました。

東京証券取引所と共催で毎夏に行われている先生のための「夏休み経済教室」の受付が6月1日からはじまりました。

(1) 日程と場所は以下の通りです。

8月7日、8日 大阪中学向け、高校向け 会場:国民会館

8月14日、15日 東京高校向け 会場:東証ホール

8月17日、18日 東京中学向け 会場:東証ホール

8月21日、22日 名古屋中学、高校向け 会場:ウインクあいち

(2) 今月は、講義や授業提案・実践報告のプログラムを紹介します。

①講義では、「豊かさとGDP」の小巻泰之先生(日本大学)、「経済学から考える新しい政治学習」の中川雅之先生(日本大学)の二つが高校向けでは注目です。

次期の学習指導要領関連では、橋本康弘先生(福井大学)と栗原久先生(東洋大学)がその考え方・教え方をレクチャーします。また「公民教育の理解の仕方・教え方」を野間敏克先生(同志社大学)が講義します。新顔では、ト部勝彦先生(日本大学)が地理教育の視点からの講義を行います。

②定番では、篠原代表による歴史シリーズでは「世界恐慌・ブロック経済・そして現代」を講義します。東京証券取引所の鈴木深先生は「基礎から学ぶ株価」の講義をします。入試問題に関しては、佐藤英司先生(福島大学)と鍋島史一氏(教育実践オフィスF)が経済学からの解説とテスト問題から授業を改善する方法をコラボで紹介します。

③実践提案・報告では、三枝利多先生のほか、塙枝里子先生、奥田修一郎先生、河原和之先生、金子幹夫先生、大塚雅之先生、山本雅康先生、佐藤央隆先生の先生方がエコノミストと授業を作るシリーズで登場します。

④東京中学の二日目に山根栄次先生(三重大学名誉教授)による「新聞を活用した公民の授業をつくろう」のワークショップが開催されます。

(3) プログラムの詳細は下記からご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/index.html>

申込先は、東京証券取引所の以下のページからです。

<http://www.jpx.co.jp/learning/seminar-events/seminar/index.html>

* 定例部会のお知らせです。(既報分も含め開催順)

■名古屋部会(No.12)を開催します。

日時:2017年6月3日(土) 15時00分~17時00分

場所:椋山女学園大学 現代マネジメント学部棟

参加方法など詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/nagoya/Nagoya012flyer.pdf>

■東京部会(No.92)を開催します。

日時:2017年6月22日(金) 19:00~21:00

場所:日本大学経済学部本館 2階会議室

参加方法など詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo092flyer.pdf>

■大阪部会 (No.54)を開催します。

日時:2017年7月15日(土) 18時00分~20時00分

場所:同志社大学 大阪サテライト(予定)

参加方法など詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka54flyer.pdf>

■札幌部会 (No.18)を開催します。

日時:2017年9月16日(土) 14時30分~17時00分

場所:キャリアバンクセミナールーム

参加方法など詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo018flyer.pdf>

【 3 】授業のヒント

■十八番のネタをもとう

十八番と書いて「おはこ」と読みます。「じゅうはちばん」と呼んでもいいのですが、これだとちょっと芸がない感じです。

由来は、歌舞伎の七代目市川團十郎(江戸時代化政期の人です)が得意としていた十八の出し物から、得意な芸を意味するようになったということです。

私たち教員もこの十八番の得意ネタ、教材をもちたいと言うのが今月の話です。

もちろん十八もネタをもっている先生は、よほどのベテランでない限り無理な話です。せいぜい、三つか四つ、これを出せば生徒が必ず乗ってくるとか、このテーマにはこのネタだけ、というものを持っているだけでも上出来です。

実例をあげます。

非常勤で出ている大学での最近の講義のなかの話です。
政治学習の組み立て方というテーマの導入に「ケーキの分け方」を紹介しました。
これは筆者の十八番のネタの一つです。

二人の兄弟(姉妹)がショートケーキをできるだけ平等に分ける方法は?という話です。参加している学生は、なんでこれが政治の話と戸惑い、また、質問の意味が分からないというような表情をしますが、なんとか答えを引きだします。

最初に、「じゃんけん」、「カづく」がでできます。「一口ずつ順番に食べる」という答えを出す学生には、「兄貴が一口で半分以上食べたらどうする?」突っ込みます。彼いわく、「そしたら喧嘩だ」。

できるだけ平等にという条件を強調すると、「ミキサーにかけてはかりで均等に作る」という答えも出てきました。

「私いちごが嫌いだから、いちごはあげて、ケーキの部分は多くもらう」という答えを出した女子学生もいます。逆に、「いちごがもらえればあとはいい」という学生もいます。

しめしめ、予想通りの答えがでてきたと私。これらの回答を黒板に書いた後、おもむろに「実は、正解があるけれど、この中にはない。正しい答えはなんだろう？」と再び問いかけます。この時、正解を知っている生徒がいると、価値は半減しますが、この時はだれも知らなかったようです。

不思議な顔をしている学生の前に、「私が答えを言ってはつまらないから、調べてごらん」と言ったら、学生曰く「それはないから、ヒントが欲しい」。

私「ヒントは、切る人、とる人だよ」。

それを聞いた学生の中から、「ああそうか」という声が上がリ、「わかる人？」と聞いたら3人の手が上がり、答えを聞いたら。正解。

その時の、学生さんたちの顔が印象的。本当に、気づいた時の「ああそうなんだ」という表情を見せました。

あとは、なぜこれが政治の学習の冒頭なのか、ケーキは何を象徴するのか、政治的資源、その分配、自然権、万人の万人に対するたたかい、ホッブス、社会契約と話を展開しました。また、この問題は経済の学習の一番最初でも使えるとの話もしてゆきました。

この講義では、学生諸君の素朴な反応が印象的でした。これなら中学生、高校生でも政治学習、経済学習の冒頭に使えるし、すぐれもののネタだということが実感できた瞬間でした。

この種の、テーマの本質に接近できる十八番のネタをいくつか持っているだけで、授業の導入に余裕ができるはずです。

同種の筆者のネタには、「世界はどこから来た？ 根源(アルケー)は何？」という倫理での十八番のネタもあります。(この問いには、学生曰く「夜、眠れなくなりそう」)

また、ゲームでは、昨年(2019年)の12月号で紹介したような $MV=PT$ を下敷きにしたヘリマネのシミュレーションなどもあります。

もっと有名どころでは、サンデルの十八番「トロッコ問題」があります。他には、「ガソリンスタンドの行列問題」、「80:20の社会が良いか 50:50の社会が良いか?」、「囚人のディレンマのじゃんけんゲーム」などを十八番ネタにしている先生方もいます。

この種の、十八番ネタを先生方と共有するのがネットワークの役割。七代目にはなれずとも芸のある従者になるための情報交換を続けたいものです。
ちなみに、ケーキ問題の正解は、新井他『経済の考え方がわかる本』岩波ジュニア新書の p136～をお読みください。(宣伝ですみません。)(新井)

【 4 】編集後記(みみずのたはこと)

ネットワークメンバーの北海道の菅原晃先生が、新著『中高の教科書でわかる経済学ミクロ編』河出書房新社、を出版されました。菅原先生の『高校生からわかるマクロ・ミクロ経済学』はベストセラーになりましたが、新著では、その精神を受け継いで、ビジネスパーソンに役立ち、かつ「中高の先生の虎の巻」を目指しているとのこと。ミクロは過剰、マクロはスカスカという教科書の問題点指摘などもしっかり書かれています。

それにしても、現場の人間がこれだけの著作を刊行してゆく、その研鑽ぶりに頭が下がります。マクロ編も続けて刊行されとのこと。注目したいと思います。

(新井)

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページより
お手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

----- (C) Network for Economic Education ◆◇